

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】年度当初の構成的グループエンカウンター（A中学校）

「幸せな世界とは？」に対する個人の考えを付箋に記入し、共通項を模造紙にまとめた。ここから学級目標を考えたことは、みんなが安心して過ごせる学級づくりのきっかけとなった。



【取組2】二者面談（B中学校）

4月末には担任と、10月末には担任以外の学年の教員との二者面談を実施した。担任だけでなく、多くの教員と気軽に関わる機会をつくることができた。

【取組3】「推し活協議会」（C中学校）

好きなもの（推し）が似ている生徒が、学年を超えて10人程度のグループをつくり、「推し活」を実施した。3年生が中心となって協議会当日に何をすると良いかを考えていた。

「推し」について互いに語り合ったり、作品を制作し合ったりするなどして、様々な活動に取り組んだ。



【取組4】「バラ見守り隊」（D中学校）

生徒会役員を中心に、近隣の小学校や町内会と連携して都電沿いのバラロードのごみ拾いボランティアを実施した。小中のつながり、地域とのつながりを意識することができた。



【取組5】（A中学校）

「運動会ありがとうシート」を用いて運動会の振り返りを行った。自分の頑張ったことの振り返り、クラスみんなへの感謝、今後に生かしたいことを書き、クラス内で感謝を伝え合う活動を行った。

運動会当日の結果にとらわれず、運動会に向けて取り組んだことを振り返り、生徒相互で確認して、生徒の自己肯定感を高めることができた。

【取組6】（B中学校）

校内研修で生活意識調査の結果分析を行い、不登校の未然防止に向けた取組の必要性について、教員間で共通認識をもつことができた。

例えば生活意識調査における「学校が楽しい」の項目で、否定的な回答の多い学年の状況を分析した。短時間で簡単に行えるグループ活動の実施を検討し、「居場所づくり」、「きずなづくり」を意識して学級での指導の一層の充実に取り組んでいくことを協議した。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（A 中学校）

支援会議は週に1回設定されている。会議は管理職、学年、SC、SSW、特別支援教室巡回指導教員、不登校対応巡回教員で構成し、生徒の情報を共有し、今後の支援の方針を検討している。

検討した内容は、各学年部会において、具体的な対応と時期を決めて取り組んでいる。

アウトリーチによる支援（D 中学校）

担任と支援員、SSWで、不登校生徒の家庭訪問を行っている。修学旅行に向けての事前の取組に参加できるよう支援したことで、当日も参加することができた。

今後、校内別室への登校や進路につながるよう、担任と情報共有をしながらアウトリーチによる支援を引き続き継続する。

校内別室における支援（B 中学校）

教員と校内別室指導支援員とで個別、集団、運動など1週間のスケジュールを作成している。校内別室を利用する生徒はスケジュールを確認し、参加するプログラムを決めて通室できるようにすることで、見通しをもって別室での活動に取り組めるようになっている。

学期に1回程度調理タイムを設定している。調理タイムには、校内別室を日常的に利用している生徒5人、校内別室を体験したことのある3人が参加した。役割を分担して、協力してマフィンを作ることができ、参加した生徒の自信につながった。



デジタル機器を活用した支援（C 中学校）

教室の様子・黒板をオンラインで映し出して、校内別室で授業を受けることができた。

常駐している支援員と一緒に話し合いを行うこともある。



関係機関との連携

SSWと情報共有を密に行っている。

生徒や家庭の状況に応じて関係機関と連携した対応を進め、教育相談や保健師とつながって家庭の状況が落ち着いてきたケースや、当該生徒が教育支援センターに通えるようになったケースがある。

成果

校内別室における支援をきっかけに登校できるようになった生徒がいる。全校設置の校内別室を活用した支援とともに学校内外の「つながり」を増やし、個に応じた支援を継続する。

課題

欠席日数を減らすことだけでなく、在校時間や授業への参加を増やす支援を更に充実させていく。